

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492900483	事業の開始年月日	平成17年12月1日
		指定年月日	平成29年12月1日
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ厚木荻野グループホーム		
所在地	(243-0203) 神奈川県厚木市下荻野1110-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和6年12月29日	評価結果 市町村受理日	令和7年4月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

特に力を入れている点は、ご入居者が幼少期から暮らしの一部としていた年中行事などの「ハレの日」を多く設け、暮らしに色どりをつけている点です。そして、職員だけがハレの日の準備をするのではなく、ご入居者とその家族、地域の方にも一緒に協力していただき、実施しているところが特徴です。
また、「ケの日」である掃除や洗濯、料理などの日常生活上の活動は、ご入居者一人一人の潜在能力を活かしながら一緒に実施することはもちろん、ご入居者同士の助け合い（互助力）が醸成するよう支援することを心掛けています。
以上の取り組みを、毎月ホームページに掲載することに力を入れています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年1月29日	評価機関 評価決定日	令和7年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<優れている点>
「施設に入ったからできないではなく、施設にいても今までの暮らしの延長線上に今の暮らしがあるように」入居者が今までと変わりなく暮らせる支援に努めています。母の日には女性入居者全員で近くのバラ園で祝い、父の日には男性入居者全員が居酒屋でビールで祝杯をあげるなど、思い出のある伝統行事や他の行事も数多く取り入れ、利用者の笑顔や幸せな気分になれるイベントづくりに心がけています。また、事業所からの一方的な行事開催ではなく、家族や地元住民が一体となり、地元の祭りのひとつとして行事をつくりあげています。本来なら行事食は、事業所側が準備しますが、家族や入居者、地域の方々皆で祝い食を皆で作ります。事業所は多くの行事を催すことで入居者のメリハリのある暮らしから一人ひとりのADLの維持や生活行動の向上につなげたいとしています。家族、地元住民の協力によって入居者の思いに沿える支援と入居者が日々穏やかに暮らせる支援は、理念にもとづいた「真心を込めたサービス」につなげています。

<工夫点>
「服薬支援ロボット」を導入しています。医師の処方箋に従い、管理薬剤師が一人ひとりの服薬をロボットに設定し、看護師に代わり、日々の服薬の管理を行っています。これにより飲み忘れや誤薬防止につながり、何よりも介護者の服薬業務のストレス軽減から入居者と接する時間の余裕にも繋がっています。また、事業所環境の整備に職員の得意とする分野で発揮できる「係さん」活動も積極的にとりいれています。ぬか床や手芸など様々な活動により、職員の自信とモチベーションにつなげています。事業所では、入居者への真心のこもったサービスはもちろんのこと、職員の働きやすい就労環境の整備にも努め、日々取組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ツクイ厚木荻野グループホーム
ユニット名	にじいろユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社の理念を玄関および各ユニットフロアに掲示し、唱和を行っています。また、事業所理念である「真心のこもったサービス提供」について、毎日朝礼で本日も行うその具体的なケア内容について全職員が発表し、理念の共有および実践に努めております。	法人の社訓、経営理念、日本認知症グループホーム協会の倫理綱領を基に事業所独自の理念を策定しています。朝の申送りでは、全職員が輪となり顔が見える形で理念の唱和から必要な伝達事項、身だしなみのチェックに続き、当日の担当職員から理念に沿った自分の目標とする今日の具体的な支援を伝えています。理念は職員の共通認識として全職員に浸透し、日々の支援につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域行事に積極的に参加しています。また、近所の美容院やスーパー、ドラッグストアや喫茶店、教会など日常的に外出しています。	自治会の加入以外にも近隣との交流を積極的に行っています。近くの喫茶店、生花店、スーパーなど、入居者の意向に沿って出かけており、今では、顔なじみの店もできています。行事は、入居者の家族をはじめ、地元住民の協力を基に毎回盛大に行われています。開かれた施設として地域に溶け込むと共に入居者の行動範囲も広がり、以前と変わらぬ暮らしができるように深く寄り添う支援に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	睦合中学校職業体験の受け入れや地域の認知症研修、認知症サポーター養成講座講師などとおして、地域の方々にむけて認知症の人の理解や支援方法をアウンスできました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回実施し、20～30名程度と多くの方が参加下さいました。施設の運営状況を詳細に記載し、写真掲載をおして内容がより伝わるよう努めたり、実際のヒヤリハット記録や転倒事故のカメラ映像の開示の時間を取ったりしました。	利用者、家族、自治会・老人会会長や喫茶店オーナーなど、毎回多くの参加者で開催しています。会議では事業所の方針、現在の取り組み状況、新しい取組みや情報等を報告し、参加者からの質疑応答の形で進めています。出された意見や提案を反映させた事案も多く、この会議を通して事業所・家族・地元住民との交流を深める貴重な機会としています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	厚木市はFAX提出可能なものの、都度、窓口足を運び連携できるよう取り組みました。行政からは、頻りに研修案内等々の連絡を頂けています。	行政の関係部署とは、できる限り対面で連携が取れるように心がけています。運営推進会議に市の介護相談員の参加や行事開催時に商業観光課から市のキャラクター「あゆコロちゃん」の提供があるなど、行政との協力関係が円滑に取れるように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止委員会を開催し、事例検討をするほか、身体拘束や虐待、不適切なケアをテーマに、今注目のニュースやYouTube動画を活用して注意喚起を行っております。また、年2回の研修会を実施し、年1回虐待についてのアンケートを匿名で実施しています。	身体拘束委員会は、基本的に3か月に1回以上の開催とされていますが、事業所では全員で行う毎月の職員会議で事例などを採り上げ、「身体拘束をしないケア」について理解を深めています。法定研修として2ヶ月に1回の身体拘束禁止、高齢者虐待防止や認知症ケア・接遇・不適切なケアなどの研修の実施や自己点検評価による自身の確認を行うなど、事業所全体で意識を高めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	上記委員会の活動のほか、事業所内での虐待が見過ごされることのないよう、夜勤従事前面談やアンガーマネジメント研修、定期面談、夜間帯ビデオカメラチェック等々を実施し、スタッフルームに各種通報窓口番号を掲示しています。	法人の指針をもとに身体拘束や虐待防止の対策として毎月委員会を開催すると共に虐待の早期発見、早期対応、再発防止の基本的な心構えや具体的な行動について認識を深めています。また、事故やヒヤリハットなどが発生した場合に、双方の確認として音声にも対応したクラウドカメラを設置しています。記録は家族からの要望に応じて公開する場合があります。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社会福祉協議会が開催する成年後見制度についての研修会に参加するほか、理解を深めるための活動に参加しています。また、実際に成年後見制度を利用している方が2名いらっしゃり、必要毎相談をさせて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結の際は、分かり易い言葉を選び、理解およびご納得できるように努めています。また、解約または改定等の際は、文書上で説明を行うほか、必要に応じて対面もしくはお電話でご説明をしております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	CS（お客様満足度）調査をご家族に実施しているほか、施設玄関にご意見箱を設置している他、今期はご家族だけ集まってもらい、運営に関する意見を言いやすいよう事務所でみなさんと座談会をという形の運営推進会議を行いました。	入居者や家族の意見・要望などは、定期的に行うCS調査、毎月配信する居室担当からの報告、運営推進会議などから入居者・家族の意向や要望を把握し、反映させています。近々では、本人の履き心地の良さ、皮膚かぶれ予防や経費削減の代替えとして一般の下着にパットを付ける支援方法に替えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ何でも相談室の電話番号を入りに口に掲示し活用アナウンスを行っているほか、毎月の全体会議やカンファレンス用紙の提出、定期面談の機会をとおして提案を聞く場をもつようにしています。また、毎月気づきのシートを提出してもらっています。	職員の意見・提案は、いつでも柔軟に聞く機会を設けています。法人に直接電話する「何でも相談室」、個人面談、職員会議や毎月提出する「気づきシート」など、選択できる方法で申し出ることができます。事業所環境の整備なども予算の範囲内で反映しています。近々では、入居者がくつろげるソファやトースターなどを購入しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年1回ストレスチェックのアンケート実施を行い、雇用契約期間終了1か月前に面談を必ず実施し今後のキャリアや希望の労働時間等々の話を聞く時間をもっています。	個別面談を年に2回行う他に職員の日々の様子から本人の就労状況や意向の把握に努めています。また、キャリアアップ体制も整え、本人の希望に添える研修の機会も設けています。職員の得意とする分野で発揮できる「係さん」活動を積極的に取り入れ、本人の自信とモチベーションにつなげています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には現場に入る前にエリア主催のリモート研修に参加してもらい、必要な情報を獲得して頂いています。そして、階層毎に必要な能力をリモートやEラーニングをとおして学ぶ機会を提供しています。	職員一人ひとりの職務能力や介護知識を把握し、職員全員のスキルアップに向けた階層別、専門別の研修を設けています。新人職員には、OJT制度を導入し、介護現場での支援方法や必要な知識について実践を通して身につける仕組みを整えています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	社内ではグループホーム部会をとおして、他グループホーム管理者と毎月情報交換を行い、社外では神奈川県認知症グループホーム協議会や介護福祉士会などの活動をとおして、情報交換を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	多くのご利用者は、ご本人の意志とは関係なくいつの間にか生活場が変わり、大きな戸惑いを覚えている状況にあります。そのご本人がまず今何に困り不安を感じているのかをお聞きし、安心感を持って頂けることに注力し関わるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用開始直後は、入所させてしまった自責感のほか、どのように生活が継続していくのか金銭面を含め大きな不安をもっていらっしゃいます。そのセンシティブな感情に配慮し、通常以上に連絡や報告を行い、安心感を持って頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前のCMや関係機関からも情報収集を行い、ご本人や家族のニーズと入所がマッチングしているのかを入居判定会議でまず見極め、必要に応じて地域の包括や他職種と連携しながら支援をするように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共助である介護保険施設に住んでいても、自分のことはできるだけ行う自助の実践のほか、暮らしを共にする者同士が助け助けられながら互助ある暮らしができるよう、生活のなかにあるその営みを大切にできるように支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	介護施設の職員のマンパワーだけでは、ご利用者一人一人の生活を支えることは到底難しいと痛感しています。ご家族とご本人との関係性を理解しながら、それぞれの立場だからできる援助を行い、連携を取るように努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	世間の感染症の流行に関わらず、今まで通っていた教会やお墓参り、理美容外出など今までと変わりなく出掛けて頂いたり、面会も積極的に受け入れました。また携帯での通話やZOOM面会など色々と工夫もしました。	入居者のこれまでの生活パターンに配慮し、家族や友人との外出や訪問には、できる限りの支援を行っています。父の日の男性入居者全員が、居酒屋で祝杯をあげたり、母の日にバラ園で女性全員が祝う事は、事業所においても途切れることのない支援として継続しています。入居者や家族から満足感と幸福感が味わえると高い評価を得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同生活場のフロアにおける座席は、環境整備の観点からとても重要だと考えています。利用者同士の関係性において、会話の活発化や助け合える仕組み作りの一つとして席替えを定期的の実施しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご逝去によりサービス利用が終了しても、介護の日イベント「恐れ多くもご家族から感謝の手紙を頂こう企画」では、ご家族から一文頂くご提案を頂いたり、写真をアルバムにしてお送りしたり、経過フォローをしています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今まで朝食はパンだった方は、白飯と選択できるよう希望を聞き取ったり、同じパン食でもトーストする方とそのままの方など、意向にあわせた食の提供を行っています。また、ドリンクバーを設置し、いつでも好きな飲み物をセルフで飲めるようにしています。	事業所のメニューは朝食は白飯となっていますが自宅では朝パン食だった入居者の希望を聞き、入所後も以前と同じようにパンを提供しています。各フロア共有スペースにはドリンクバーやコーヒー、紅茶など入れられるようお湯のポットを置き、入居者が自分で好きな時に飲めるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、してほしいケアとしてほしくないケアなど、職員のみならず派遣職員も把握できるよう、個人ファイルのTOPページにA4 1枚程写真つきでシートを作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月、計画作成担当者がアセスメントを実施し、ケアプランに反映させています。また、毎月1回ケアカンファレンスを開催し、現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者が主となって、ご本人やご家族、医療関係者と連携を図りながら介護計画を作成しています。といつつも、今期は、管理者が兼務となっているため、至っていないところが多くあります。	計画作成担当者は入居者本人や家族から要望を聞き、アセスメントやカンファレンス内容を踏まえ、医療関係者と連携を図りながら施設サービス計画書を作成しています。誰の施設サービス計画書かわかるように作成し、3か月ごとに見直しています。	サービス支援計画書作成の過程の見直しが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケア実践の記録を電子媒体であるSCOPというソフトに入力し、職員間および他職種間でも情報共有をしています。それらの情報をケアカンファレンスで再検討し、介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	当ホームには入居前にツクイ厚木水引デイサービスに通所されていた方がおり、節分企画として、昔の友と今の友、みんな友達ということで、水引DSのドライバーに迎えに来てもらい、GHとDSの利用者が一緒に豆まきを楽しむ企画を行いました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	厚木市のケアマネ部会に加入し、地域資源の情報収集に努めています。また、厚木市の地域イベント情報等を定期的にチェックし、それぞれの入居者が興味のあるイベントに参加できるように努めました。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	回診医は2か所の病院と連携をとっており、入所時にご家族に選択して頂いております。また、いままでかかっていた医師のところ定期的に通院されている方も3名程いらっしゃいます。	月2回協力医院の内科医が訪問診療しています。希望者には歯科の訪問診療も月4回行っています。入居前からのかかりつけ医に継続して通院する場合には家族が随行していますが、家族の随行が難しい利用者には職員が付き添っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回、連携している訪問看護ステーションの看護師が来所し、ご利用者の医療処置（巻き爪や摘便など）や医療面で職員の相談にのってくれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご家族に同行し病状経過の説明をするほか、介護サマリーを提出しています。また、入院中はMSWへ連絡し、円滑な退院が行えるよう関係づくりをおこなっています。今期より、退去時情報連携加算取得あり。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約締結時に、重度化および終末期についてご本人とご家族にご説明をし、書面にて署名捺印を頂いております。また、年1回、看取りに関するアンケートをご本人もしくはご家族に聞き取りを行い、情報更新をしています。	病状の重度化等に伴い終末期の状態になった場合は家族の希望により看取りケアを実施しています。最期の瞬間を一人にしないよう、息を引き取る瞬間まで家族と共に職員が付き添います。職員は看取りのケアの研修を定期的に行いケアに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年1回、急変や事故発生時に関する研修を実施しています。また、消防署予防課が主管する研修に例年参加し、緊急時対応の訓練を実施しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防訓練（通報訓練や水消火器訓練）を実施しているほか、9月1日は有事に備えてカップラーメンを作るところから入居者が行き、実際に即した訓練を行っています。また、毎月1日は施設内の余剰品や備蓄品を活用して防災食をみんなで作っています。	非常災害、風水害や地震などを想定した「消防計画」を作成し年2回消防訓練を実施しています。実際の有事を想定して、毎月1日に施設内にある余剰食料などを使っておじやなどの防災食を作ったり、毎年9月1日はカップラーメンを入居者が作って食べたりして防災食を通して災害対策への意識を高めています。	事業所避難訓練に地域住民の参加が得られることが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法定研修にプラスして、毎月、接遇研修の実施が決められており、人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉かけなど実際のツクイの従業員が出演して学習するコンテンツ視聴を行っています。	運営本部が作成した接遇のDVDを全職員が毎月視聴し人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉かけについて学んでいます。プライバシー保護の観点から、夜間時などで職員が一人の時であっても、利用者のトイレ介助ではトイレのドアをきっちり閉めることを徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お誘いは疑問文でお聞きする、何かを提供する際は、必ず2種類以上のものの中から選択してもらうようにするなど、生活の他愛ない場面で自らが決定しやすいような言葉かけをするよう留意しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床の遅い方は、その方のペースに合わせた朝食提供を、ご入浴に関しても基本曜日はあるものの、ご本人の気分に合わせてサービス提供を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪を伸ばしたり、カラーで染めたり、時には近所のしまむらへ衣類を買いにでかけたり。在宅にいた時とお変わらない様、ご本人のおしゃれを楽しむ気持ちを大切に、支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭きや手拭きタオル配り、お茶入れや小鉢への盛付、野菜切りから炒め物、茶碗洗いから茶碗拭きなど、一人一人の潜在能力を活用して一緒に食事作りや片付けを行っています。	管理栄養士が作成したメニューに基づき用意された食材を職員は利用者と一緒に料理し、利用者が持つ力が発揮できるように自立支援に取り組んでいます。「和太鼓」などの行事では職員ではなく利用者が家族や行事に参加した地域の人と一緒にお寿司や天ぷらを作り、食事を楽んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士が作成したメニュー表をもとに調理しています。1日熱量が1800kcal、蛋白質65g、脂質60g、炭水化物200g、塩分9g前後に計算されており、1日1500mlの水分提供を基本としています。また1品ずつ提供などその人の状態に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、ご利用者の身体状況に合わせて口腔介助および見守りをしています。また、週1回歯科衛生士が来所し口腔ケアを実施するほか、歯科相談にのってもらうなど、口腔内清潔保持に努めています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りリハビリパンツではなく布パンツの使用へと切替られるよう、取り組みを行っています。また、24時間の排泄記録を用いて一人一人の排泄パターン把握に努めています。	リハビリパンツから布パンツへの使用に切り替えることにより、皮膚のかぶれや湿疹が減っています。24時間の排泄記録からパターン化して声かけを行っています。看護師と相談し刺激性下剤は使用しないようにし、毎日動くことを日課とし、近くの神社に散歩したりしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	刺激性下剤の服用をできるだけ行わず、牛乳やヨーグルト、オリゴ糖や寒天ゼリーなど補助食品の活用と、歩行量を増やす活動とを併せ便秘解消にむけ取り組みを行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には、午前中が浴室開放時間となっております。ただ、ご本人の希望やご都合で午後や夜間ご入浴となることもあり、その時々で柔軟に対応できるようにしています。また、定期的に入浴イベントを実施し楽しみを増やしています。	入浴イベントとして「日本全国なんちゃって温泉巡り」を実施し、乳頭温泉、登別温泉、別府温泉、熱海温泉の入浴剤を使用して利用者が楽しめるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中活動時間は6:00～21:00となっておりますが、9:00まで寝ている方や23:00までテレビをみて起きている方など、今までの生活習慣を大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ロボットを使用し、介助しています。ご利用者が内服しているお薬の内容及び副作用が記載されている専用ファイルを作成し、その内容を2週間ごとに更新、確認しています。また、管理薬剤師と連携を取り、薬の形状などの相談を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています。	日本舞踊をしていた方が数名いらっしゃるもので、秋には全員浴衣に着替え盆踊りをしています。また、父の日には男性入居者だけで居酒屋へ出かけたり、今までの生活歴を大切にしたい支援に努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染対策をして近所のサンドラックやイオンに買い物へ行ったり、季節毎、桜や曼珠沙華、稲刈り、バラ園などへでかける他、宮ヶ瀬ダムや飯山温泉郷へ遠足へ出かけました。必要毎、デイサービスと連携し、バスを借りています。	歯ブラシなど消耗品は施設で一括購入するものが多くなり利用者が買い物で外出する機会が減っていますが、系列のデイサービスのバスを運転手付きで借りて宮ヶ瀬ダムや河津桜がきれいな飯山温泉郷へ遠足に出かけ、四季折々の自然が楽しめる機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	物盗られ妄想が出現される方が多くおられるグループホームにとって、ご本人が居室でお金を管理することはあまりありませんが、教会へ支払う小銭や近所の買い物時は、ご利用者にお支払い工程をお願いしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	コロナ禍、各ユニットに専用の携帯を用意し、24時間365日、いつでもご利用者のご家族が連絡をとれる環境を整えました。また、手紙を文通している方もいらっしゃいます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は清潔を心掛けています。また、季節を感じられるようフロアや玄関などあちらこちらに季節の生花および造花を飾っています。特に、12か月ごとに入れ替える季節のタペストリーは好評です。ただ、日当たりが良すぎるため、眩しすぎることは少し難。	施設の掃除を担当するクリーンサポーターを採用し共用空間を清潔にし快適に過ごせるよう取り組んでいます。玄関、階段やフロアには季節の生花などを飾ってリラックスできる環境を整備しています。毎月入れ替えるタペストリーを飾り落ち着いた空間を醸し出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各居室が用意されているので、一人になりたい時はお部屋で過ごされ、みなさんと交流されたい時は、自席のほかにフロアに2か所ソファを用意し、ご利用者同士団欒できるよう環境を整えています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明やカーテン、エアコン、介護ベッドを備え、ご自宅で使い慣れた棚やタンスはご持参頂いています。居室の清掃は、毎日の日課として職員と一緒にご利用者に行ってもらい、足りないところはクリーンサポーターが実施しています。	居室には使い慣れた家具を持ってきたり、自分が作った貼り絵などの作品を飾ったり、教会ミサに参加するため、情報端末を設置し教会のライブ中継にアクセスしている利用者もいます。居室の掃除は居室担当と一緒にすることを日課としています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	認知症からは異食や収集癖といった症状が連想され、ご入居者が手に届く場所から生活用品が消え殺風景な生活を余儀なくされることがよくあります。そのような生活にしない為に、安全に留意しながら以前と変わらない家庭的な環境づくりを心掛けています。		

事業所名	ツクイ厚木荻野グループホーム
ユニット名	ハナミズキユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社の理念を玄関および各ユニットフロアに掲示し、唱和を行っています。また、事業所理念である「真心のこもったサービス提供」について、毎日朝礼で本日行うその具体的なケア内容について全職員が発表し、理念の共有および実践に努めております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域行事に積極的に参加しています。また、近所の美容院やスーパー、ドラッグストアや喫茶店、教会など日常的に外出しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	睦合中学校職業体験の受け入れや地域の認知症研修、認知症サポーター養成講座講師などをおして、地域の方々にむけて認知症の人の理解や支援方法をアナウンスできました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回実施し、20～30名程度と多くの方が参加下さいました。施設の運営状況を詳細に記載し、写真掲載をおして内容がより伝わるよう努めたり、実際のヒヤリハット記録や転倒事故のカメラ映像の開示の時間を取ったりしました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	厚木市はFAX提出可能なものの、都度、窓口に足を運び連携できるよう取り組みました。行政からは、頻繁に研修案内等々の連絡を頂けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止委員会を開催し、事例検討をするほか、身体拘束や虐待、不適切なケアをテーマに、今注目のニュースやYouTube動画を活用して注意喚起を行っております。また、年2回の研修会を実施し、年1回虐待についてのアンケートを匿名で実施しています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	上記委員会の活動のほか、事業所内での虐待が見過ごされることのないよう、夜勤従事前面談やアンガーマネジメント研修、定期面談、夜間帯ビデオカメラチェック等々を実施し、スタッフルームに各種通報窓口番号を掲示しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社会福祉協議会が開催する成年後見制度についての研修会に参加するほか、理解を深めるための活動に参加しています。また、実際に成年後見制度を利用している方が2名いらっしゃり、必要毎相談をさせて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結の際は、分かり易い言葉を選び、理解およびご納得できるように努めています。また、解約または改定等の際は、文書上で説明を行うほか、必要に応じて対面もしくはお電話でご説明しております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	CS（お客様満足度）調査をご家族に実施しているほか、施設玄関にご意見箱を設置している他、今期はご家族だけ集まってもらい、運営に関する意見を言いやすいよう事務所でみなさんと座談会をという形の運営推進会議を行いました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ何でも相談室の電話番号を入りに掲示し活用アナウンスを行っているほか、毎月の全体会議やカンファレンス用紙の提出、定期面談の機会をとおして提案を聞く場をもつようにしています。また、毎月気づきのシートを提出してもらっています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年1回ストレスチェックのアンケート実施を行い、雇用契約期間終了1か月前に面談を必ず実施し今後のキャリアや希望の労働時間等々の話を聞く時間をもっています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には現場に入る前にエリア主催のリモート研修に参加してもらい、必要な情報を獲得して頂いています。そして、階層毎に必要な能力をリモートやEラーニングをとおして学ぶ機会を提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	社内ではグループホーム部会をとおして、他グループホーム管理者と毎月情報交換を行い、社外では神奈川県認知症グループホーム協議会や介護福祉士会などの活動をとおして、情報交換を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	多くのご利用者は、ご本人の意志とは関係なくいつの間にか生活場が変わり、大きな戸惑いを覚えている状況にあります。そのご本人がまず今何に困り不安を感じているのかをお聞きし、安心感を持って頂けることに注力し関わるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用開始直後は、入所させてしまった自責感のほか、どのように生活が継続していくのか金銭面を含め大きな不安をもっていらっしやいます。そのセンシティブな感情に配慮し、通常以上に連絡や報告を行い、安心感を持って頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前のCMや関係機関からも情報収集を行い、ご本人や家族のニーズと入所がマッチングしているのかを入居判定会議でまず見極め、必要に応じて地域の包括や他職種と連携しながら支援をするように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共助である介護保険施設に住んでいても、自分のことはできるだけ行う自助の実践のほか、暮らしを共にする者同士が助け助けられながら互助ある暮らしができるよう、生活のなかにあるその営みを大切にできるように支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	介護施設の職員のマンパワーだけでは、ご利用者一人一人の生活を支えることは到底難しいと痛感しています。ご家族とご本人との関係性を理解しながら、それぞれの立場だからできる援助を行い、連携を取るように努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	世間の感染症の流行に関わらず、今まで通っていた教会やお墓参り、理美容外出など今までと変わりなく出掛けて頂いたり、面会も積極的に受け入れました。また携帯での通話やZOOM面会など色々と工夫もしました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同生活場のフロアにおける座席は、環境整備の観点からとても重要だと考えています。利用者同士の関係性において、会話の活発化や助け合える仕組み作りの一つとして席替えを定期的の実施しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご逝去によりサービス利用が終了しても、介護の日イベント「恐れ多くもご家族から感謝の手紙を頂こう企画」では、ご家族から一文頂くご提案を頂いたり、写真をアルバムにしてお送りしたり、経過フォローをしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今まで朝食はパンだった方は、白飯と選択できるよう希望を聞き取ったり、同じパン食でもトーストする方とそのままの方など、意向にあわせた食の提供を行っています。また、ドリンクバーを設置し、いつでも好きな飲み物をセルフで飲めるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、してほしいケアとしてほしくないケアなど、職員のみならず派遣職員も把握できるよう、個人ファイルのTOPページにA4 1枚程写真つきでシートを作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月、計画作成担当者がアセスメントを実施し、ケアプランに反映させています。また、毎月1回ケアカンファレンスを開催し、現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者が主となって、ご本人やご家族、医療関係者と連携を図りながら介護計画を作成しています。と少しずつも、今期は、管理者が兼務となっているため、至っていないところが多くあります。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケア実践の記録を電子媒体であるSCOPというソフトに入力し、職員間および他職種間でも情報共有をしています。それらの情報をケアカンファレンスで再検討し、介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	当ホームには入居前にツクイ厚木水引デイサービスに通所されていた方がおり、節分企画として、昔の友と今の友、みんな友達ということで、水引DSのドライバーに迎えにきてもらい、GHとDSの利用者が一緒に豆まきを楽しむ企画を行いました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	厚木市のケアマネ部会に加入し、地域資源の情報収集に努めています。また、厚木市の地域イベント情報等を定期的にチェックし、それぞれの入居者が興味のあるイベントに参加できるよう努めました。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	回診医は2か所の病院と連携をとっており、入所時にご家族に選択して頂いております。また、いままでかかっていた医師のところ定期的に通院されている方も3名程いらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回、連携している訪問看護ステーションの看護師が来所し、ご利用者の医療処置（巻き爪や摘便など）や医療面で職員の相談にのってくれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご家族に同行し病状経過の説明をするほか、介護サマリーを提出しています。また、入院中はMSWへ連絡し、円滑な退院が行えるよう関係づくりをおこなっています。今期より、退去時情報連携加算取得あり。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約締結時に、重度化および終末期についてご本人とご家族にご説明をし、書面にて署名捺印を頂いております。また、年1回、看取りに関するアンケートをご本人もしくはご家族に聞き取りを行い、情報更新をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年1回、急変や事故発生時に関する研修を実施しています。また、消防署予防課が主管する研修に例年参加し、緊急時対応の訓練を実施しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防訓練（通報訓練や水消火器訓練）を実施しているほか、9月1日は有事に備えてカップラーメンを作るところから入居者が行い、実際に即した訓練を行っています。また、毎月1日は施設内の余剰品や備蓄品を活用して防災食をみんなで作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法定研修にプラスして、毎月、接遇研修の実施が決められており、人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉かけなど実際のツクイの従業員が出演して学習するコンテンツ視聴を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お誘いは疑問文でお聞きする、何かを提供する際は、必ず2種類以上の中から選択してもらうようにするなど、生活の他愛ない場面で自らが決定しやすいような言葉かけをするよう留意しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床の遅い方は、その方のペースに合わせた朝食提供を、ご入浴に関しても基本曜日はあるものの、ご本人の気分に合わせてサービス提供を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪を伸ばしたり、カラーで染めたり、時には近所のしまむらへ衣類を買いにでかけたり。在宅にいた時とお変わりな様、ご本人のおしゃれを楽しむ気持ちを大切に、支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭きや手拭きタオル配り、お茶入れや小鉢への盛付、野菜切りから炒め物、茶碗洗いから茶碗拭きなど、一人一人の潜在能力を活用して一緒に食事作りや片付けを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士が作成したメニュー表をもとに調理しています。1日熱量が1800kcal、蛋白質65g、脂質60g、炭水化物200g、塩分9g前後に計算されており、1日1500mlの水分提供を基本としています。また1品ずつ提供などその人の状態に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、ご利用者の身体状況に合わせて口腔介助および見守りをしています。また、週1回歯科衛生士が来所し口腔ケアを実施するほか、歯科相談にのってもらするなど、口腔内清潔保持に努めています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りリハビリパンツではなく布パンツの使用へと切替られるよう、取り組みを行っています。また、24時間の排泄記録を用いて一人一人の排泄パターン把握に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	刺激性下剤の服用をできるだけ行わず、牛乳やヨーグルト、オリゴ糖や寒天ゼリーなど補助食品の活用と、歩行量を増やす活動とを併せ便秘解消にむけ取り組みを行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には、午前中が浴室開放時間となっております。ただ、ご本人の希望やご都合で午後や夜間ご入浴となることもあり、その時々で柔軟に対応できるようにしています。また、定期的に入浴イベントを実施し楽しみを増やしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中活動時間は6:00～21:00となっておりますが、9:00まで寝ている方や23:00までテレビをみて起きている方など、今までの生活習慣を大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ロボットを使用し、介助しています。ご利用者が内服しているお薬の内容および副作用が記載されている専用ファイルを作成し、その内容を2週間ごとに更新、確認しています。また、管理薬剤師と連携をとり、薬の形状などの相談を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日本舞踊をしていた方が数名いらっしゃるため、秋には全員浴衣に着替え盆踊りをしています。また、父の日には男性入居者だけで居酒屋へ出かけたり、今までの生活歴を大切に支援に努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染対策をして近所のサンドラックやイオンに買い物へ行ったり、季節毎、桜や曼珠沙華、稲刈り、バラ園などへでかける他、宮ヶ瀬ダムや飯山温泉郷へ遠足へ出かけました。必要毎、デイサービスと連携し、バスを借りています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	物盗られ妄想が出現される方が多くおられるグループホームにとって、ご本人が居室でお金を管理することはあまりありませんが、教会へ支払う小銭や近所の買い物時は、ご利用者にお支払い工程をお願いしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	コロナ禍、各ユニットに専用の携帯を用意し、24時間365日、いつでもご利用者とご家族が連絡をとれる環境を整えました。また、手紙を文通している方もいらっしゃいます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は清潔を心掛けています。また、季節を感じられるようフロアや玄関などあちらこちらに季節の生花および造花を飾っています。特に、12か月ごとに入れ替える季節のタペストリーは好評です。ただ、日当たりが良すぎるため、眩しすぎることは少し難。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各居室が用意されているので、一人になりたい時はお部屋で過ごされ、みなさんと交流されたい時は、自席のほかにフロアに2か所ソファを用意し、ご利用者同士団欒できるよう環境を整えています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明やカーテン、エアコン、介護ベッドを備え、ご自宅で使い慣れた棚やタンスをご持参頂いています。居室の清掃は、毎日の日課として職員と一緒にご利用者に行ってもらい、足りないところはクリーンサポーターが実施しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	認知症からは異食や収集癖といった症状が連想され、ご入居者が手に届く場所から生活用品が消え殺風景な生活を余儀なくされることがよくあります。そのような生活にしない為に、安全に留意しながら以前と変わらない家庭的な環境づくりを心掛けています。		

2024年度

事業所名 ツクイ厚木荻野グループホーム
 作成日：2025年4月2日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	施設サービス計画書作成の際、入居者本人やご家族から聞き取りを行い個別性を反映しているものの、ご家族への聞き取りはコロナ渦から電話が主となっており、対面での担当者会議が実施できていない現状がある。	1年に1回、サービス担当者会議を対面で実施できる。	1) 短期目標終了期間1か月前に要望聞き取り連絡をする際、予め会議の必要性について説明を行う 2) 長期目標の終了期間1か月以上前にご家族へ連絡し、サービス担当者会議開催日の日程調整を行う 3) サービス担当者会議開催日決定後、関係機関に書面を送付する	12ヶ月
2	26	利用者家族等アンケート集計結果 6) 介護計画書の説明において、一緒に話し合っている56.3%、説明は受けたが話し合っていない37.5%と一方的な要望聞き取りとなっていた。入居者本人やご家族からの要望を今以上に聞き取る必要がある。	入居者本人とご家族、医療職と一緒に施設サービス計画書の作成および点検評価を行うことができる。	1) 3か月ごとのモニタリング報告をご家族レターとは別に、書面でご家族に送付する 2) 上記と一緒に、目標やサービス内容、実施状況について意見聴取できるように書面を作成し、返信してもらう	12ヶ月
3	35	事業所の避難訓練では、ポスターを作成し広く地域住民の参加を募集しているものの、家族以外の参加が得られていない状況。	地域住民と一緒に避難訓練が実施できる。	1) 避難訓練の実施1か月以上前にポスターを作成し掲示する 2) 避難訓練実施1か月以上前から地域の方にお誘い文を送付する 3) 避難訓練実施1か月以上前から地域の方に口頭でお誘いを行う	12ヶ月